

中央大学学員会支部 中大技術士会

ニュースレター vol.42

会員の皆様へ

4月1日に新元号の発表があり、「令和」と決まりました。新元号の発表に合わせ、どのような元号となるのか自分でも複数個予想を立てていましたが、全く予想外れでした。新しい元号は未来に向けて明るく輝かしいものと期待していましたが、新元号の発表を聞いた第一印象は率直に言って冷たいと感じたのは私だけでしょうか。どうも「令」という漢字が命令や法令といった使い方をしていることが多いためと思われます。漢字辞典を調べると、「いいつけること（命令）」や「きまり、掟」という意味が最初に来ます。そのほかにも「長（おさ）、長官」や令夫人、令嬢などの「立派な」という意味もあるようです。いずれにしても我々一般人にはあまり使われない漢字のようです。今回の元号に関する報道を見て、改めて日本における「天皇」の位置づけを意識させられました。日本国憲法には「主権在民」が明記され、「天皇」はあくまで「象徴」という位置づけですが、私にとっては「天皇=日本国王」なのだということを改めて感じさせられた出来事でした。新元号は政治家による天皇への忖度ではないですね。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ (<http://www.chuo-u-pej.org/>) から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「技術士の中央大学を目指して」：坂林和重さん（電気電子部門）	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会報告	3 ページ
■ CO2環境対策技術研究会活動報告	4 ページ
■ 大学支援部会活動報告	4 ページ
■ 広報部会活動報告	4 ページ
活動計画	5 ページ
■ 企画部会活動計画	5 ページ
■ 大学支援部会活動計画	5 ページ
■ CO2環境対策技術研究会活動計画	5 ページ
リレーエッセイ	6 ページ
■ 「中大技術士会への期待」：金川護さん（上下水道部門、総合技術監理部門）	6 ページ
エッセイ	7 ページ
■ 「2019年度は、二次試験合格のチャンスです」：坂林和重さん（電気電子部門）	7 ページ
会員からの便り	10 ページ
■ 石川幹子教授の最終講義が行われました	10 ページ

■ 「技術士の中央大学を目指して」：坂林和重さん（電気電子部門）

中大技術士会で技術士試験を担当している坂林です。私が技術士資格とかかわり始めたのは平成 19 年からです。それまでは、電気系の資格を教えるセミナーの実施を目指して起業していました。その後、技術士資格を知り、受験してこの資格のすばらしさを知って、現在は技術士試験セミナーを運営しています。技術士試験のすばらしい点は、知識の暗記試験で無く考え方試験である点と、技術者倫理を問う試験である点です。



さて、中央大学の在學生や卒業生が取得する主な資格としては、司法試験・公認会計士・国家公務員総合職などあります。これらの資格に理工学部ならではの資格として技術士資格を定着させ『技術士に中央大学あり』としたいと思っています。

現在の中央大学の實力は、一次試験での在學生の合格者人数では、全国約 750 の全大学で常に 1~2 位を確保しています（表 1 参照）。しかし OB・OG を含めると 3~7 位となってしまいます（表 2 参照）。OB・OG への受験支援が必要と考えています。また、さらにその先の二次試験合格者数は、ベスト 10 位にも入っていません（表 3 参照）。

今後は、「第 2 表 一次試験の OB・OG を含めて大学別合格者数順位」と「表 3 二次試験の大学別合格者数順位」でベスト 3 位以内を目指したいと思っています。

受験支援の手始めとして、**6月8日(土)**に**二次試験の受験対策セミナー**を計画しています。セミナーでは、**必須科目の予想問題を配布**しようと考えています。**9月中旬**には、**一次試験の模擬試験**を計画しています。1人でも多くの OB・OG が受験対策セミナーと模擬試験に参加してもらえればと思っています。

このニュースレターを読んでいる人は、ぜひ受験中の OB・OG に**中大技術士会へ連絡**するように声をかけて頂ければと思います。（二次試験の現状における詳細は、エッセイをご覧ください）

表 1 一次試験の**在學生**の大学別合格者数順位

順位	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
	大学名	大学名	大学名	大学名	大学名
1	中央大学	中央大学	中央大学	日本大学	日本大学
2	日本大学	日本大学	日本大学	中央大学	中央大学
3	京都大学	京都大学	法政大学	佐賀大学	佐賀大学
4	早稲田大学	早稲田大学	青山学院大	東京都市大	早稲田大学
5	青山学院大	法政大学	佐賀大学	千葉工業大	京都大学
6	佐賀大学	青山学院大	東洋大学	早稲田大学	九州大学
7	九州大学	佐賀大学	九州大学	名城大学	青山学院大
8	九州工業大	佐世保工専	早稲田大学	法政大学	岐阜工業工専
9	鳥取大学	北海道大学	名城大学	青山学院大	大阪市立大学
10	首都大東京	九州大学	京都大学	立命館大学	千葉工業大学
			東京大学	九州大学	東京都市大

表 2 一次試験の OB・OG を含めて大学別合格者数順位

順位	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
	大学名	大学名	大学名	大学名	大学名
1	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学
2	京都大学	京都大学	京都大学	京都大学	京都大学
3	東京大学	東京大学	東京大学	中央大学	早稲田大学
4	早稲田大学	早稲田大学	九州大学	東京大学	東京大学
5	九州大学	九州大学	中央大学	早稲田大学	北海道大学
6	中央大学	北海道大学	早稲田大学	九州大学	中央大学
7	東北大学	中央大学	北海道大学	北海道大学	九州大学
8	北海道大学	大阪大学	大阪大学	東京工業大学	大阪大学
9	大阪大学	東北大学	東北大学	東北大学	東京工業大学
10	東京工業大学	東京理科大	東京工業大学	大阪大学	東北大学

表 3 二次試験の大学別合格者数順位

順位	H30年
	大学名
1	京都大学
2	東京大学
3	九州大学
4	北海道大学
5	日本大学
6	大阪大学
7	東北大学
8	東京工業大学
9	早稲田大学
10	名古屋大学

■ 幹事会報告

行事名	開催日程	活動概要
2018年度 第7回幹事会	12月19日(水) 18:30~20:00	<p>(1) 各部会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務部会 <ol style="list-style-type: none"> ① 技術士第一次試験合格者発表があった。 在学生の合格者数は、日大に続く第2位であった。 技術士ガイダンス時に、過去問を配布し、早めに意識をしてもらうことも一案である。 ② 特に今年は、第二次試験の建設部門の合格者が例年の半数近くで極端に悪化している。 ③ 2019年のホームカミングデーは後樂園キャンパスで行われる。 ・企画部会 <ol style="list-style-type: none"> ① 11月28日第2回の講演会を都市環境学科佐藤教授を講師にお招きして開催した。 ② 講演会参加者を一般会員から多く集める努力が必要である。 ・広報部会 <ol style="list-style-type: none"> ① サーバーの更新手続きが完了した。 ② ニュースレターの発行状況を確認した。 ・大学支援部会 <ol style="list-style-type: none"> ① 「科学技術と倫理」講義は、山下講師、中尾講師を予定。 ② 2019年「技術者倫理」は13名の講師派遣予定。 ③ 2019年度から100分授業に変更される。(現行90分) ④ 都市環境学科「キャリアデザインと倫理」講義に当会から6名の講師を派遣する予定である。 ⑤ 「筏プロジェクト」の特許は、意見書を提出し、合議制の審判が開かれる予定。 ・CO2環境対策技術研究会 <ol style="list-style-type: none"> ① 2019年4月~5月に、第34回研究会を行う予定。 ② 次回幹事会で林幹事から「小学校の理科支援活動」に関する話題提供を行う。 ・その他 <ol style="list-style-type: none"> ① 筏プロジェクトは、特許庁で工業所有権に関する合議制審判が予定されている。 ② テクノロジー懇談会は、12月5日篠崎幹事から整体師から見たボート競技選手に関する講義が行われた。 ③ ミミズロボットは、管清工業におけるテストが失敗し、手直し後再テストの予定。 ④ 当幹事会の「ペーパーレス」を考慮し、プロジェクターを用いていくことが提案された。

■ CO2環境対策技術研究会活動報告

H30 第3回幹事会	H31年1月24日(木) 18:30~20:00 後楽園校舎5310号室	話題提供:林委員「理科支援授業」 第34回研究会の企画
------------	--	--------------------------------

■ 大学支援部会活動報告

項目	内容
「科学技術と倫理」講義	講師(ゲストスピーカー)派遣 5月28日(火) 中尾氏 6月4日(火) 山下氏 6限(18:50~20:30) 教室:未定
「キャリアデザインと倫理」講師(兼任講師)派遣 3年生 前期	2019年度から始まり、前期講義で6名の講師派遣を予定
「技術者倫理」講義	2019年度:後期の講義で13名の講師派遣予定. 2020年度:講義の予定なし
人間総合理工学科石川幹子教授の最終講義	3月4日 人間総合理工学科石川幹子教授の最終講義が行われました。最終講義報告をニュースレターに投稿します。
「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」	特許取得となりました

■ 広報部会活動報告

項目	内容
サーバー運営	①メールリストおよびWeb名簿のメンテナンス実施 ②会員からの要望によりメールリストの登録変更
ニュースレターの発行	ニュースレターvol.41作成、発行
HP新規掲載	①ニュースレターvol.41の掲載
その他	①新規入会者16名をメールリストに登録(技術士補1名) ②新規入会者をメールリストに登録した 技術士:1名、技術士補:1名、修習技術者:4名 ③樫山理工学部長より、理工学部創立70周年事業の募金を行う話があり、中大技術士会のHPからでもアクセスできるようにする予定。
会員の皆様へのお願い	①就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先:toiawase@chuo-u-pej.org ②ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。近況報告、受験体験談、2020年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお待ちします。 ③会員相互の交流を深めることを目的に比較的気楽に投稿できる「 <u>趣味</u> 」を共通テーマとした <u>リレーエッセイ</u> を募集しております。執筆依頼がありましたら、躊躇せずに投稿をお願いします。 <u>リレーエッセイの執筆をご希望の方はtoiawase@chuo-u-pej.org</u> まで、お知らせください。意外な繋がりが生まれるかも知れません。

活動計画

■ 企画部会活動計画

行事	日程	内容
令和1年度 第1回講演会	R1年6月8日(土)	定時総会での特別講演会として開催 講師：中央大学理工学部人間総合理工学科 准教授 山村 寛 先生 会場：後楽園キャンパス
ホームカミングデー	R1年9月29日(日)	開催内容等未定 会場：後楽園キャンパス
理工白門祭	R1年11月2日(土)～ R1年11月4日(月)	「無料相談会」として出展予定 会場：後楽園キャンパス
法曹会との交歓会	未定	今回は中大技術士会が幹事担当のため、中大技術士会で企画する予定

■ 大学支援部会活動計画

行事	日程	内容
二次試験受験対策セミナー	R1年6月8日(土)	新試験制度に対応した受験対策の紹介
一次試験ガイダンス	R1年6月	在学生に一次試験の紹介と受験のすすめ

■ CO2環境対策技術研究会活動計画

行事名	開催日程	活動概要
H30 第4回幹事会	H31年3月22日(木) 18:30～20:00 中大後楽園校舎 5310号室	CO ₂ 吸収材の模型見学 第34回研究会の確認 第35回研究会の企画
第34回研究会	R1年5月24日(金)	見学先：JFE スチール 交流会：「アウマンの家」JFE 構内の飲食店
H30 第5回幹事会	R1年5月16日(木) 18:30～20:00 中大後楽園校舎 5310号室	第35回研究会の企画 第10回報告会の企画
第35回研究会	R1年7月頃	見学先：未定 交流会：未定

第15回定時総会開催のお知らせ

開催日：2019年6月8日(土)

会場：中央大学理工学部後楽園キャンパス 5号館 5333号教室

内容：技術士第二次試験ガイダンス

定時総会 14:00～15:00

特別講演 15:15～16:45

講師：中央大学理工学部人間総合理工学科 准教授 山村 寛 先生

情報交流会 17:00～18:30

※技術士第二次試験ガイダンスの詳細については、後日、HPに掲載します。
(内容、時間等に変更がある場合がありますので、ご承知置きください)

■ 「中大技術士会への期待」：金川護さん（上下水道部門、総合技術監理部門）

私は同期の集まりである白門 35 会で、当時中央大学常任理事の三宅邦彦さん（法学部卒）とお会いして、技術士の説明をしました。その後会合を重ねるうちに、中大出身の技術士が何名いるのかという話になり、中大事務局に手伝っていただき日本技術士会の名簿を調べた結果、150 名の技術士がいることが分かりました。そこで白門技術士会を作ってみたらとの話になり、丁度、日本技術士会上下水道部会で一緒に幹事をしていた鈴木薫さんが中大出身であったことから、彼を呼び込んで、白門技術士会（現、中大技術士会）を創設する準備を始めました。鈴木さんは中央大学学会会との交渉や、会則の制定に大変尽力してくれました。



さて会長には技術士資格をもっている企業の会長、社長経験者を連れてこようと思いましたが、なかなか技術士資格を持っている方が居られず、これから出来る会がどうなるかも分からず、手を上げる人もおりませんでした。そこで、最後に鈴木さんと相談し、「言い出しっぺがやるしかない。」とのことで、年齢が上の私が会長に、鈴木さんが幹事長になるということで、白門技術士会を発足させることといたしました。調べた名簿を基に 150 名に電話して何とか設立準備委員を選定し、1 年後の平成 16 年に発起人委員会を立ち上げ、それをもとに白門技術士会を発足することが出来ました。発足時の副会長には、渡辺潤三さん、藤森公彦さん、畑中勉さんをお願いしました。

白門技術士会が動き出してから、2~3 年間は理工学部の先生方も関心を示して下さらなかったのですが、応用化学科の大石先生と「CO2 環境対策技術研究会」を立ち上げてからは順調に発展しております。先生方と共同の研究会を作ったり、鈴木先生や国生先生の要請で技術者倫理の授業に講師を出すようになり、さらに技術士一次試験の模擬試験や PR を行い、在学生合格者日本一を獲得する等、中央大学にも貢献し現在に至っております。

私は会が軌道に乗れば早期に会長を何方かに譲りたいと思っておりましたが、10 年間会長に留まり、平成 26 年に当時副会長だった内藤さんにバトンタッチすることが出来ました。

さて、今後の中大理工学部と中大技術士会への期待ですが、中大理工学部の研究や技術の蓄積を社会に活用し、企業を呼び込んで共同研究開発をもっと進めることを期待しております。その時に技術士はコーディネータやアドバイザーとして参加できるよう研究支援室と連携も重要になってきます。技術士はアドバイザーとしてそれなりの報酬も当然頂けます。中大技術士会に参加すれば、中大の名声を高めるだけでなく、技術士個人のメリットがあると思うようになれば、さらに隆盛になるのではないのでしょうか。

更に、中央大学に期待したいのは医学部の設置です。これからの寿命は 100 歳と言われ、その為には健康やスポーツの発展に医学と工学の連携は必須です。既に生命化学科ではそのような研究をされている先生も居られます。首都圏の医大は経済的にも盤石であり、中大が参画するところは無い様ですが、東北や北陸の医大には中大と連携可能なところもあるようです。医学部が出来れば、理工学部もさらに発展できると期待しております。それに伴い中大技術士会の発展にも期待できます。運動部も医学的、工学的な支援が得られれば、箱根駅伝でも優勝が出来る様になると期待しております。

「今回は中央大学名誉教授の国生先生にお願いします」

■ 「2019年度は、二次試験合格のチャンスです」：坂林和重さん（電気電子部門）

3月8日（金）に2018年度の二次試験の合格発表がありました。予想された結果ですが、非常に厳しい結果でした。結果は、下記表の通りです。

情報工学部門（7.2%⇒6.5%）と総合技術監理部門（9.8%⇒6.4%）は、例年以上に難関となりました。さらに今回は、建設部門（12.8%⇒6.3%）も厳しい結果となりました。逆に衛生工学部門（6.6%⇒10.8%）は、難易度が少し和らぎました。



技術部門別試験結果

（ ）は、JABEE修了者で内数

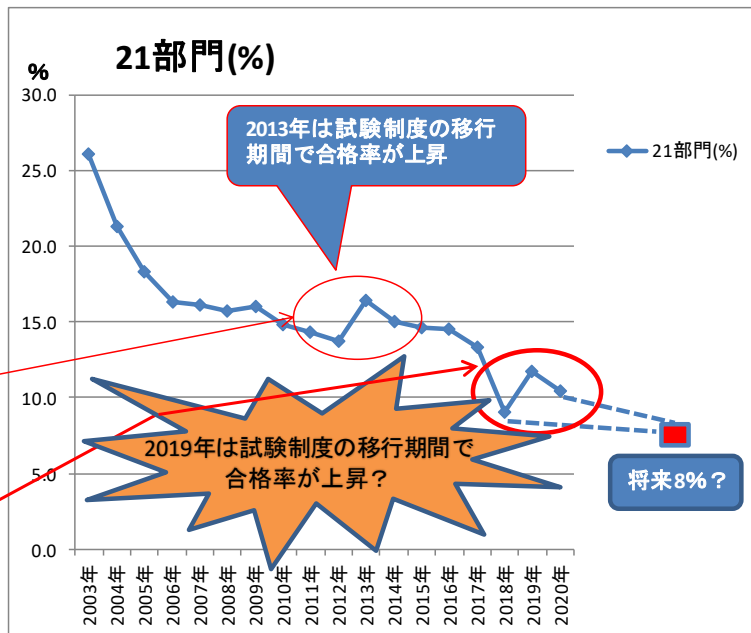
技術部門	受験申込者数		受験者数		合格者数		対受験者合格率	
機 械	1,223	(120)	1,058	(108)	224	(18)	21.2%	(16.7%)
船 舶 ・ 海 洋	9	(3)	8	(3)	3	(0)	37.5%	(0%)
航 空 ・ 宇 宙	66	(2)	59	(2)	11	(0)	18.6%	(0%)
電 気 電 子	1,758	(64)	1,448	(48)	187	(6)	12.9%	(12.5%)
化 学	158	(19)	137	(17)	25	(3)	18.2%	(17.6%)
織 維	53	(0)	46	(0)	12	(0)	26.1%	(0%)
金 属	121	(9)	114	(9)	53	(4)	46.5%	(44.4%)
資 源 工 学	24	(2)	17	(2)	6	(2)	35.3%	(0%)
建 設	18,280	(2,499)	14,175	(1,941)	886	(124)	6.3%	(6.4%)
上 下 水 道	2,038	(180)	1,552	(136)	182	(22)	11.7%	(16.2%)
衛 生 工 学	809	(44)	649	(33)	70	(5)	10.8%	(15.2%)
農 業	1,232	(72)	952	(56)	131	(9)	13.8%	(16.1%)
森 林	382	(18)	314	(12)	66	(1)	21.0%	(8.3%)
水 産	199	(23)	147	(19)	31	(3)	21.1%	(15.8%)
経 営 工 学	313	(9)	278	(9)	57	(5)	20.5%	(55.6%)
情 報 工 学	544	(14)	431	(11)	28	(0)	6.5%	(0%)
応 用 理 学	701	(111)	589	(96)	70	(8)	11.9%	(8.3%)
生 物 工 学	43	(1)	39	(1)	16	(0)	41.0%	(0%)
環 境	634	(30)	519	(28)	66	(1)	12.7%	(3.6%)
原 子 力 ・ 放 射 線	114	(5)	103	(4)	22	(0)	21.4%	(0%)
総 合 技 術 監 理	4,043	(122)	3,279	(100)	209	(10)	6.4%	(10.0%)
合 計	32,744	(3,347)	25,914	(2,635)	2,355	(221)	9.1%	(8.4%)

総合技術監理部門が、すでに 20 部門のいずれかの技術士試験に合格した人が受験する部門と考えると、最難関部門になった感があります。

さて今後の合格率を予想すると下記のように考えられます。

合格率の(2003年～2020年)年度推移と予想

合格率(%)	
	21部門(%)
2003年	26.1
2004年	21.3
2005年	18.3
2006年	16.3
2007年	16.1
2008年	15.7
2009年	16.0
2010年	14.8
2011年	14.3
2012年	13.7
2013年	16.4
2014年	15.1
2015年	14.7
2016年	14.57
2017年	13.34
2018年	9.09
2019年	11.8
2020年	10.5



すなわち、全部門の合格率で 2019 年 (11.8%) と 2020 年 (10.5%) になると考えられます。ただし、2019 年が、11.8%に若干上昇しますが、新試験制度に対応した人が合格するという事です。従来通りの勉強をしている人は、不合格です。

新試験制度とは、次の資質 (コンピテンシー) によって採点される制度です。

1. 専門的学識

技術士が専門とする技術分野 (技術部門) の業務に必要な、技術部門全般にわたる専門知識及び選択科目に関する専門知識を理解し応用すること。

技術士の業務に必要な、我が国固有の法令等の制度及び社会・自然条件等に関する専門知識を理解し応用すること。

2. 問題解決

業務遂行上直面する複合的な問題に対して、これらの内容を明確にし、調査し、これらの背景に潜在する問題発生要因や制約要因を抽出し分析すること。

複合的な問題に関して、相反する要求事項 (必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等)、それらによって及ぼされる影響の重要度を考慮した上で、複数の選択肢を提起し、これらを踏まえた解決策を合理的に提案し、又は改善すること。

3. マネジメント

業務の計画・実行・検証・是正 (変更) 等の過程において、品質、コスト、納期及び生産性とリスク対応に関する要求事項、又は成果物 (製品、システム、施設、プロジェクト、サービス等) に係る要求事項の特性 (必要性、機能性、技術的実現性、安全性、経済性等) を満たすことを目的として、人員・設備・金銭・情報等の資源を配分すること。

4. 評価

業務遂行上の各段階における結果、最終的に得られる成果やその波及効果を評価し、次段階や別の業務の改善に資すること。

5. コミュニケーション

業務履行上、口頭や文書等の方法を通じて、雇用者、上司や同僚、クライアントやユーザー等多様な関係者との間で、明確かつ効果的な意思疎通を行うこと。

海外における業務に携わる際は、一定の語学力による業務上必要な意思疎通に加え、現地の社会的文化的多様性を理解し関係者との間で可能な限り協調すること。

6. リーダーシップ

業務遂行にあたり、明確なデザインと現場感覚を持ち、多様な関係者の利害等を調整し取りまとめることに努めること。

海外における業務に携わる際は、多様な価値観や能力を有する現地関係者とともに、プロジェクト等の事業や業務の遂行に努めること。

7. 技術者倫理

業務遂行にあたり、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮した上で、社会、文化及び環境に対する影響を予見し、地球環境の保全等、次世代に渡る社会の持続性の確保に努め、技術士としての使命、社会的地位及び職責を自覚し、倫理的に行動すること。

業務履行上、関係法令等の制度が求めている事項を遵守すること。

業務履行上行う決定に際して、自らの業務及び責任の範囲を明確にし、これらの責任を負うこと。

今年の技術士試験の合格を目指す人は、これらの項目に沿って勉強して下さい。そうでなければ、ムダな勉強になって不合格となってしまいます。

しかしながら、新試験制度に対応でき無い人をしり目に対応できる人は、合格率上昇の恩恵を受けることとなります。

新試験制度に対応した勉強方法は、6月8日（土）に中大技術士会でセミナーを開催して解説をしようと思います。5月中旬になりましたら、時間と場所を公開しますので、もし良かったら、参加してください。

■ 石川幹子教授の最終講義が行われました

中央大学理工学部人間総合理工学科石川幹子教授の最終講義が、平成 31 年 3 月 4 日（月）後楽園キャンパス 5333 号室で行われましたので報告します。

当日は、あいにくの雨で肌寒い日でしたが、人間総合理工学科の先生方や卒業生、東京大学や慶応義塾大学の関係者の他、石川先生らしく NPO 等の市民団体関係者など様々な分野の人々約 200 名が熱心に先生の最終講義を堪能しました。

最終講義は、「夢を旅する」との演題で、「社会的共通資本としての緑地」に関する學問の 70 年間に渡る確立過程を、取り組み事例と共に時系列で紹介、講義されました。（學問：中央大學の學を使用）

外見上は全く見えませんが、高校生の時にお父様を亡くされたことや、お子様がまだ幼少時にご主人を亡くされ経済的に大変厳しい時代が何度もあったにも関わらず、自分が追い求める夢を決してあきらめることなく學問として追及・確立され今日の地位を築かれました。

現在では、石川先生が提唱されている、グリーン・インフラ（GI）の有効性、重要性は各方面で認められ自治体などでも整備計画に理念として導入されています。石川先生が手掛けられたデザインの実践例は、「スペイン・マドリッドの Water Tree21 世紀公園」「中国瀋陽中央公園」など海外でも多くありますが、国内でも非常に多くの実績があります、市民参加型の「先生出身地である宮城県岩沼市の津波被害復旧」、全く新規に建設された「埼玉県川口市の火葬場」などしっかりした理念と社会的合意形成が成立実現の根幹であると印象に残りました。

石川先生の今後は、中央大学研究開発機構教授として学部、学科のスケジュールに縛られることなく活動され、多方面のデザインに GI 理念を浸透させていかれることでしょう。プータン王宮周辺の都市計画もお願いされていると聞いていますが、経済至上主義で都市化されたメトロポリタン東京のいろいろな場所が、GI 再生整備され風が流れる緑を堪能する東京人が増えることも願うものです。

講義終了後、3 号館 31008 号室に会場を移し懇親会が行われました。パーティ会場では、多くの参加者が石川先生の功績を話題に歓談したり、今後の更なる活躍を期待する関係者たちとの記念写真撮影など、大盛況でありました。

石川先生自身も技術士でもあり、日頃から熱心に中大技術士会を応援して頂いており感謝に堪えません。今後とも中大技術士会への様々な指導・助言を期待し、最終講義の報告とします。



写真 1：最終講義の風景



（写真・文責：幹事 中尾愛人）